

平成30年度

事業報告書

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

社会福祉法人 津野町社会福祉協議会

事業実績の概要

地域住民が主体となる小地域福祉活動の実践に向け、また、本会の地域福祉事業の見直しや今後の重点的な取り組みの検討を通して、地域福祉活動計画の策定に取り組みました。

また、孤立する住民の支援のために、生活困窮者自立相談支援事業、福祉サービス利用援助事業、介護事業、就労支援事業等の事業を活用し、伴走型の個別支援に努めました。

＜ 平成30年度重点的な取り組みに関する評価 ＞

1. 地域担当制による小地域福祉活動の推進

地域の困りごとや地域福祉活動に関する情報が一元的に集まるように、また、地域住民からの相談窓口がわかりやすいように小学校区ごと(3地域)に地域福祉職員を地区担当制としました。民生児童委員協議会や“地域のきになる座談会(福祉委員・民生児童委員連絡会)”等で周知に努めました。

2. 地域の人財把握と地域づくり活動との連携

地域で活動する住民を知り、新たなネットワークの構築をはかりながら地域情報の把握と地域課題解決を行うために、座談会で地域情報の把握に努めました。

3. 相談につながりにくい住民へのアウトリーチ

自分から相談に行くことができなかつたり、自らの福祉課題に気が付かない住民への訪問相談支援を積極的に行うよう努めました。民生児童委員や地域住民からの情報をもとに、同行訪問なども実施しました。

4. 地域福祉活動アクションプランの策定

住民主体の小地域福祉活動を推進するために、モデル的に3地域で地域と一体となった小地域アクションプランを策定しました。

1. 法人基盤整備・強化

(1) 理事会

意思決定機関として事業経営を行った。就労継続支援事業所の経営など本会が抱える様々な課題を協議検討した。

理事会には、職員も参加し、役職員が課題意識の共有を図った。

| 開催日 場所 | 会議の名称 出席者数 | 議題及び内容 |
|---|--|---|
| 平成 30 年 5 月 29 日 津野町総合保 健福祉センタ ー「里楽」 | 第 1 回理事会 理事 7 名 監事 2 名 (事務局 6 名) | 〈議案〉 ・平成 29 年度事業報告 ・平成 29 年度収支決算 ・平成 30 年度補正予算 (第 1 次) ・定款の変更 ・就労継続支援事業所「どんぐり農園グリュ ーネ」運営規程の一部改正 ・ボランティア活動・福祉教育推進事業助成 金交付対象事業の承認 ・評議員会の招集 〈協議・報告〉 ・地域の“き”になる座談会について ・今後の予定 |
| 平成 30 年 10 月 12 日 津野町老人福 祉センター | 第 2 回理事会 理事 7 名 監事 2 名 (事務局 6 名) | 〈協議・報告〉 ・上半期会長職務執行状況報告 ・災害ボランティアセンター活動報告 ・地域福祉活動計画について ・どんぐり農園の運営について ・歳末助け合い運動について |
| 平成 30 年 12 月 18 日 津野町総合保 健福祉センタ ー「里楽」 | 第 3 回理事会 理事 8 名 監事 1 名 (事務局 7 名) | 〈議案〉 ・平成 30 年度補正予算 (第 2 次) ・評議員会の招集 〈協議・報告〉 ・直近の事業執行に関する報告 ・地域福祉活動計画 ・経理規程の一部見直し ・介護事業所の統合 ・就労継続支援事業所の経営 |

| | | |
|--|--|--|
| 平成 31 年 3 月 19 日 津野町老人福 祉センター | 第 4 回理事会 理事 7 名 監事 2 名 (事務局 6 名) | 〈議案〉 ・平成 30 年度補正予算 (第 3 次) ・平成 31 年度事業計画 ・平成 31 年度収支予算 ・経理規程の一部改正 ・事務局就業規程等の一部改正 ・地域福祉活動計画の承認 ・評議員会の招集 〈協議・報告〉 ・会長職務状況の報告 |
|--|--|--|

(2) 監査

監事は、平成 29 年度事業及び会計監査を実施し、指摘事項を会長及び事務局へ告げた。同時に監査報告書を作成した上で、理事会で報告した。また、理事の業務執行状況を監査する立場から、全ての理事会に出席し意見を述べた。

- 実施日：平成 30 年 5 月 23 日 (水)
- 場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」
- 監査項目：平成 29 年度事業実績報告書
平成 29 年度計算書類及び関係書類
- 中間監査：平成 30 年 10 月 24 日 (水)

(3) 評議員会

4 月 1 日時点で 13 名の評議員による評議員会を開催した。

法人運営の基本ルール、体制の決定と事後的な監督を行う議決機関として、定められた事項について決議を行った。

| 開催日 場所 | 会議の名称 出席者数 | 議 題 及 び 内 容 |
|--|--|--|
| 平成 30 年 6 月 14 日 津野町老人福 祉センター | 第 1 回 (定時) 評議員会 評議員 10 名 (会長、事務局 3 名) | 〈議案〉 ・平成 29 年度事業報告書の承認 ・平成 29 年度収支決算 ・定款の変更 ・平成 30 年度補正予算 (第 1 次)の承認 |

| | | |
|---|---|---|
| 平成 30 年 12 月 25 日 津野町総合保 健福祉センタ ー「里楽」 | 第 2 回評議員会 評議員 9 名 (会長、事務局 2 名) | 〈議案〉 ・平成 30 年度第 2 次補正予算 〈協議・報告〉 ・平成 30 年度前期事業執行状況報告 ・平成 30 年度第 2 回理事会報告 ・平成 30 年度第 3 回理事会報告 |
| 平成 31 年 3 月 26 日 津野町老人福 祉センター | 第 3 回評議員会 評議員 9 名 (会長、事務局 1 名) | 〈議案〉 ・平成 30 年度補正予算 (第 3 次)の承認 ・平成 31 年度事業計画 ・平成 31 年度収支予算 〈協議・報告〉 ・平成 30 年度後期事業執行状況報告 ・平成 30 年度第 4 回理事会報告 |

(4) 評議員選任・解任委員会

選任及び解任について開催の必要性がなく、未開催であった。

(5) 住民会員制度

7月に、町内全域の成人に会員加入のお願いをし、各地区長の協力により、下記のとおりの実績があった。また、特別会員の加入についても格段のご理解をいただき下記のような実績を上げることができた。

会費は、地域福祉活動推進のため活用した。加入状況、使途については、社協日より「あくしゅ」に掲載し、また、地区長会で報告した。

■個人会員

| | 会員数 (人) | 加入戸数 (戸) | 口数 (口) | 金額 (円) |
|------|---------|----------|--------|---------|
| 東地区 | 1,140 | 999 | 1,210 | 605,000 |
| 西地区 | 502 | 425 | 511 | 255,700 |
| 合計 | 1,642 | 1,424 | 1,721 | 860,700 |
| ※前年度 | 1,709 | 1,467 | 1,725 | 862,500 |

■特別会員

| | 団体数 | 加入口数 | 金額 (円) |
|------|-----|------|---------|
| 町内 | 35 | 37 | 185,000 |
| ※前年度 | 37 | 40 | 200,000 |



(6) 事務所と職員体制

6月29日付で津野町と指定管理の協定を締結し、老人福祉センターに西支所を移転した。

本所、西支所及び就労継続支援事業所にそれぞれ職員を下記のとおり配置した。地域福祉の地域担当制及び複数事務事業の兼務による職員体制とした。

<平成31年3月現在の職員体制>

| | | | | | |
|----------------|----------------------|------|-------------------|---------------|------|
| 本所 | 事務局長 | 1名 | 西支所 | 支所長(事務局長兼務) | (1名) |
| | ※就労継続支援事業所 管理者、支所長兼務 | | | 主任 | 1名 |
| | 主任 | 2名 | | ※自立相談支援員兼務 | |
| | ※地域活動支援センター施設長兼務 | | | 事務職員(臨時) | 2名 |
| | ※日常生活自立支援事業専門員兼務 | | | 配食員(非常勤) | 3名 |
| | 主幹 | 1名 | | 訪問介護員(非常勤) | 2名 |
| | ※訪問介護事業所サービス提供責任者 | | | サロン送迎運転(非常勤) | 1名 |
| | 主事 | 1名 | 就労継続 支援事業 所 | サービス管理責任者 | 1名 |
| | 事務職員(臨時) | 1名 | | 目標工賃達成指導員(臨時) | 1名 |
| | 訪問介護員(臨時) | 1名 | | [どんぐり農園] | |
| | あったかふれあいセンター職員(臨時) | 3名 | | 職業指導員(臨時) | 1名 |
| | (非常勤) 1名 | | | 生活支援員(臨時) | 1名 |
| | 地域活動支援センター支援員(臨時) | | | 職業指導員(非常勤) | 2名 |
| | | | | 生活支援員(非常勤) | 1名 |
| | 配食員(非常勤) | 1名 | | 送迎運転士(非常勤) | 1名 |
| | 訪問介護員(非常勤) | 3名 | | [作業所里楽] | |
| | | | | 職業指導員(臨時) | 1名 |
| | | | 生活支援員(臨時) | 2名 | |
| | | | 職業指導員(非常勤) | 1名 | |
| | | | 送迎運転士(非常勤) | 1名 | |
| 業務項目 | 正職員 | 臨時職員 | 非常勤職員 | 計 | |
| 法人運営 地域福祉事業 | 5名 | 7名 | 6名 | 18名 | |
| 介護事業 | 1名 | 1名 | 5名 | 7名 | |
| 就労継続支援事業 | 1名 | 6名 | 6名 | 13名 | |
| 計 | 7名 | 14名 | 17名 | 38名 | |

2. 啓発・福祉教育事業

(1) 社協だより「あくしゅ」、社協リーフレットの発行

「あくしゅ」については、本会の組織や事業報告、経営状況を情報公開し、また、福祉情報、地域福祉活動を地域住民に広く知ってもらうために毎月1日を発行日として、年間12回発行した。A4サイズ、全6ページ1色刷り、2月号についてはカラー印刷の体裁で作成した。

各地区長に協力をいただき、全戸配布を行い、町内の金融機関や公共施設、交流施設等関係機関へも配置をお願いした。ホームページへの掲載も行った。

「社協リーフレット“こんにちは社会福祉協議会です”」については、社協会員募集時（7月）に、社協の事業概要などを紹介したパンフレットを作成し、全戸に配布した。裏面には、住民の安心を支援するため、「お守りカード」を刷り込んだ。

(2) 住民福祉研修会「地域の“め”になる研修会」の開催

地域の暮らしの中で行われている見守り活動と見守られ活動や集いに焦点をあてながら、地域主導の支え合いについて住民対象の研修会を開催した。地域福祉活動計画についても内容を説明し、披露した。地域福祉活動計画の愛称を参加者からアンケートにより応募してもらった。

- 実施日 平成31年3月3日(日)
- 場 所 津野町総合保健福祉センター「里楽」
- 参加者(住民) 63人
- 内 容 ●講演「お宝を活かす地域づくり」
講師 ご近所福祉クリエイター
酒井保 氏
- 地域での実践活動紹介
- 地域福祉活動計画の紹介



(3) 子ども福祉・ボランティア活動

■ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付事業

津野町内の小、中学校が行う地域でのボランティア活動や福祉教育・伝承活動の取り組み支援することを目的として、本会の会員会費を活用して助成を行った。

<平成30年度助成先>

| 学校名 | 助成事業内容 |
|--------|---|
| 中央小学校 | 施設訪問、サロン訪問、お茶づくり、伝統的食文化の学習米作り、 |
| 精華小学校 | いきいき学習発表会、敬老年賀状、高齢者との交流、施設訪問 |
| 葉山小学校 | 地域との連携交流事業、ふれあい集会、感謝祭、学習発表会 |
| 東津野中学校 | 神楽の伝承 |
| 葉山中学校 | 保育園訪問ボランティア活動、24時間TV募金活動、全校ボランティア活動、高齢者への年賀状、勤労体験、人権教育講演会 |

■福祉教育・ボランティア学習の推進

津野町内の小・中学校のコミュニティスクール、地域学校協働本部の取り組みに参加し、学校及び関係者と連携して福祉活動に取り組んだ。

学校関係会議・教職員との打ち合わせへの参加は、3小学校、2中学校で合計21回だった。精華小学校では、10月実施の防災キャンプの企画準備にかかわった。

地域貢献活動事前学習<東津野中学校>

- 実施日：平成30年4月17日
- 対象：東津野中学校1年生
- 内容：津野町の地域福祉活動とボランティア活動

地域貢献活動<東津野中学校>

- 実施日：平成30年5月11日
- 対象：東津野中学校1年生
- 内容：ふれあい配食、ほっとサービス、地域サロンでボランティア活動、事後のまとめ

3. 住民主体の福祉コミュニティづくり

(1) 福祉委員活動

平成30年度「地域の“き”になる座談会（福祉委員・民生児童委員連絡会）」出席状況

| 開催日 | 対象地区 | 参加者数（延人数） | | | | | | | 実人数 |
|----------|---------------------|-----------|------|-----|-----------------|----|------------------|----------|-----|
| | | 民生委員 | 福祉委員 | 地区長 | 消防団 県社協 他 | 町 | 社協 役員・ 評議員 | 社協 職員 | |
| 4月16日 | 新土居 | 2 | 6 | 3 | 12 | 2 | 1 | 2 | 14 |
| 17日 | 烏出川、力石 | 1 | 2 | 1 | 4 | 1 | 0 | 2 | 6 |
| | 杉ノ川 | 1 | 5 | 3 | 6 | 0 | 1 | 2 | 11 |
| 18日 | 郷 | 2 | 5 | 0 | 13 | 2 | 1 | 2 | 18 |
| | 赤木、桑ノ川、 梶足 | 1 | 3 | 1 | 6 | 1 | 0 | 2 | 7 |
| 19日 | 上井田、久保川 | 1 | 4 | 2 | 7 | 0 | 0 | 2 | 11 |
| 20日 | 北川、大古味 | 2 | 1 | 0 | 11 | 0 | 2 | 2 | 11 |
| | 三間川、樺ノ川 西谷 | 1 | 5 | 2 | 6 | 0 | 1 | 2 | 8 |
| 23日 | 船戸町、船戸奈路、 西の川、中村 | 1 | 2 | 4 | 7 | 1 | 1 | 2 | 11 |
| | 永野、貝ノ川 川の内 | 1 | 4 | 4 | 4 | 2 | 0 | 2 | 10 |
| 24日 | 大野、藤ノ川、 鍵野々 | 1 | 2 | 2 | 6 | 0 | 1 | 2 | 9 |
| 25日 | 新田、保井川 保井川団地 | 1 | 2 | 1 | 7 | 0 | 1 | 2 | 10 |
| 26日 | 高野 | 1 | 6 | 1 | 20 | 0 | 1 | 2 | 26 |
| 27日 | 下野、芳生野奈路 | 1 | 1 | 2 | 6 | 2 | 0 | 2 | 6 |
| | 東黒川、西黒川 白河瀬 | 1 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 8 |
| 5月1日 | 宮谷、木桑 | 1 | 2 | 2 | 4 | 0 | 2 | 2 | 8 |
| | 白石 | 2 | 3 | 6 | 9 | 0 | 0 | 2 | 13 |
| 7日 | 桑ヶ市、西倉川、 岩土 | 1 | 2 | 1 | 7 | 0 | 1 | 2 | 8 |
| 10日 | 船野、東倉川、 舞ノ川、栗ノ木 | 1 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 4 |
| 14日 | 姫野々 | 2 | 4 | 3 | 11 | 1 | 1 | 2 | 14 |
| 15日 | 床鍋 | 1 | 4 | 1 | 10 | 1 | 1 | 2 | 11 |
| 27日 | 桂 | 0 | 2 | 1 | 12 | 0 | 1 | 2 | 14 |
| 合計（22会場） | | 26 | 71 | 43 | 173 | 13 | 17 | 44 | 238 |

東地区92名、西地区71名の福祉委員が、各地域で活動された。

福祉委員活動の周知と民生児童委員との連携を強めるため、また、見守り支え合える地域づくりを目指して、4月16日から5月27日の間、町内22会場で地域の“き”になる座談会（福祉委員・民生児童委員連絡会）を開催した。福祉委員活動を理解しやすいように「福祉委員の手引き」を活用して説明した。また、地域の中にある集いやたまり場、身近な見守り活動の聞き取りを行った。



▲地域の“き”になる座談会

（2）地域サロン

各地区の地域性やニーズに合わせたサロン活動が地域の創意工夫で展開された。本会では、サロンの運営上の相談を受け支援等を行った。地域サロンへの訪問も随時行った。

➤ 平成30年度開催実績

| | | | |
|---------|-----------|--------------|--------------|
| 報告サロン数： | 31 箇所 | （東地区 20 箇所 | 西地区 11 箇所） |
| 開催回数： | 延 614 回 | （東地区 438 回 | 西地区 176 回） |
| 参加人数： | 延 5,084 人 | （東地区 3,393 人 | 西地区 1,691 人） |

■サロン世話人連絡会・お茶会

世話人連絡会及び世話人お茶会は、昼の部と夜の部を開催し、参加しやすい環境設定に努めた。各サロンで課題となっている内容について意見交換を行った。

＜サロン世話人連絡会＞

- 開催日：平成30年5月9日（水）
- 参加者：昼の部 15サロン 26人
夜の部 17サロン 23人

＜ちょこっとお茶会＞

- 開催日：平成30年7月19日（木）
- 参加者：昼の部 3サロン 5人
夜の部 12サロン 21人

■輪投げ大会

サロン対抗輪投げ大会は、24時間テレビチャリティイベントに併せて開催し、多くの住民でにぎわった。

- 実施日：平成30年8月25日（土）
- 参加者： 15サロン 87人

（3）福祉パトロール

町内の70歳以上の一人暮らし高齢者や75歳以上の高齢夫婦世帯等に対して、民生児童委員、行政、消防、警察、ボランティアグループなど福祉関係団体の協力により安心・安全見守り台帳の聞き取り訪問調査を行った。

郷地区では、地区住民が中心となってパトロール活動を行った。本会では、実施に向けて地区との話し合いや調整などを行った。

新たに対象者となった方には個人情報使用同意書に署名してもらった。



<平成30年度福祉パトロール状況>

| 項目 | 郷地区 | 東地区 | 西地区 |
|---------|-------------|---------------|---------------|
| 実施日 | 6月13日（水） | 6月19日（火） | 6月21日（木） |
| 訪問世帯・人数 | 17世帯 18人 | 184世帯 240人 | 101世帯 130人 |
| 協力者数 | 31人 | 63人 | 64人 |

(4) 安心・安全見守り台帳とお守りカード

高齢者等を対象にした福祉パトロールで、緊急連絡先やかかりつけ医、就寝場所などを聞き取り、安心・安全見守り台帳を作成した。その台帳の情報から「お守りカード」を作成し、457世帯、578人の在宅一人暮らし高齢者等へ配置した。

(5) あったかふれあいセンター事業

町より受託し、5か所のサテライト拠点で週1回のペースで実施した。現場スタッフ3名及び送迎等支援非常勤スタッフ1名の体制で行った。

介護予防体操を全サテライトで毎回実施し、利用者の身体機能維持を図るとともに、体操への意欲向上に努めた。必要に応じて、本会の地域福祉・在宅介護担当者と連携しながら利用者の情報共有や訪問活動にあたった。

住民主体のサテライトづくりを進めるために、利用者の声を引き出すように努めた。

[集い]

| サテライト名称 | 開設日数 | 利用者数(延人数) | | | | | 前年度利用者数 |
|---------|------|-----------|------|-----|-----|-------|---------|
| | | 高齢者 | 障がい者 | 子ども | その他 | 合計 | |
| いちょうの郷 | 41 | 690 | 0 | 2 | 12 | 704 | 803 |
| 鶴松の風 | 49 | 1,356 | 0 | 17 | 30 | 1,403 | 1,660 |
| 新田くつろぎ家 | 50 | 994 | 40 | 10 | 27 | 1,071 | 978 |
| いらずのさと | 47 | 716 | 0 | 12 | 25 | 753 | 852 |
| せんだん | 49 | 1,020 | 20 | 4 | 30 | 1,074 | 1,234 |
| 合計 | 236 | 4,776 | 60 | 45 | 124 | 5,005 | 5,527 |

[機能別利用者数(延人数)]

| 集い(再掲) | 送迎 | 訪問 | 生活支援 | 相談 |
|--------|-------|----|------|----|
| 5,005 | 2,687 | 79 | 353 | 28 |

[会議の開催回数]

| 定例会 | 運営検討会 | ケース検討会 | スタッフ会 | 運営協議会 |
|-----|-------|--------|-------|-------|
| 4 | 10 | 11 | 21 | 25 |

(6) 地域福祉活動計画

津野町が策定した「津野町地域福祉計画」に連動する「津野町地域福祉活動計画」を平成31年度からの3か年計画として策定した。

地域で取り組まれる福祉活動が住民主体で推進されるように、モデル的取り組みの3地区（郷地区、白石地区、床鍋地区）については、計画化のための話し合いに参加したり、共有したことの見える化をはかった。

また、地域でユニークな取り組みを行っている実践例を地区担当職員がレポートし活動計画に掲載した。

本会の事業についても地域福祉活動が推進されるように事業チェックを行い今後の重点的な取り組みについて記載した。

地域福祉活動計画書の啓発ために、3月3日開催の「地域の“め”になる研修会」で住民向けの説明を行った。参加者からのアンケート結果を参考に「㊦ながるふくし㊧計画」という愛称を付けた。

4. 助け合い・支え合えるつながりづくり

(1) ボランティア活動・ボランティアセンター

■ボランティア登録

ボランティア活動保険や行事用保険の加入手続き及び活動を希望する人、団体の登録を行った。

▶ ボランティア登録者の現状

個人ボランティア登録79名（東27名、西52名）

▶ ボランティア活動保険加入手続き

加入者 11グループ233人

ボランティア行事用保険加入手続き件数 69件

■ ボランティア連絡協議会事務局

町内各種のボランティア関連団体の連絡調整組織として、事務局運営を行った。各加盟団体へのお知らせとして、情報紙「ぼらんていあ」を1回発行した。

高幡広域社協連絡協議会が行ったボランティア活動団体交流会「高幡の“呑まない”おきゃく」への参加を呼びかけ、5人の参加を得て、他市町ボランティア団体との交流がはかれた。

- 加入団体 18団体

■ 24時間テレビ「愛は地球を救う」チャリティキャンペーン

ボランティア連絡協議会を中心として、賛同団体による実行委員会を組織し、津野町全体の取り組みを行った。本会は事務局業務を担当し、テレビ局との調整、輪投げ大会等の内容企画実施、募金の集計送金等を行った。

- 実施日：平成30年8月25日
- 会場：〈東会場〉葉山の蔵
 〈西会場〉津野町福祉交流センター
- 賛同団体：34団体
- 募金送金額 499,662 円

(2) 住民参加型助け合い制度「ほっとサービス」

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がいのある方等の暮らしの支援として住民参加によるサービスを実施した。

＜平成30年度実績＞

受付件数20件 利用実績14件（東 1件、西13件）

協力会員：延35人 稼働時間：延38.5時間

- 庭木の剪定・・・・・・・・・・3件
- 家周辺の草引き・・・・・・・・3件
- 墓掃除・・・・・・・・・・1件
- カーテンの洗濯・・・・・・・・1件
- ゴミの分別、処理・・・・・・・・5件
- 風呂場の掃除、窓ふき・・・・1件

(3) ふれあい配食サービス

一人暮らし高齢者等への昼食宅配サービス。東地区では、月4回、西地区では、月3回実施した。ボランティア、民生児童委員の全面的な協力を得て、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等で希望される方に手作り弁当を届けた。



また、一時、野菜の高騰により食材料費の捻出に苦慮したが、住民の方から多くの食材料の提供をいただき、予算内でのサービスを実現できた。

ボランティア、民生児童委員の配達時には、話し相手や安否確認などもでき、心の交流につながった。

調理ボランティアの研修と交流を目的として2月19日、ボランティア39名の参加で高知市方面へバス研修を実施した。

<平成30年度ふれあい配食 実績>

| | 配食数(食) | 利用者数(人) (4月時点) | 調理ボランティア (延人数) | 配達ボランティア (延人数) |
|------|--------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 東地区 | 1,934 | 54 | 288 | 414 |
| 西地区 | 2,048 | 59 | 285 | 214 |
| 計 | 3,982 | 113 | 573 | 628 |
| ※前年度 | 4,469 | 126 | 582 | 661 |

x

(4) 災害ボランティアセンター事業

7月豪雨災害の被災地支援として職員により下記のとおり活動を行った。

宿毛市災害ボランティア活動

- 活動日：平成30年7月12日(木)
- 活動者：職員2名

宇和島市災害ボランティアセンター運営支援

- 活動日：①平成30年7月22日(日)～27日(金)
②平成30年8月3日(金)～7日(火)
- 活動者：職員2名

災害ボランティアセンター中核スタッフ研修会へは、運営会議のメンバー2名の参加を得た。

災害ボランティアセンター運営会議については、開催することができなかった。

3. 生活課題に向き合う総合相談

(1) 生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮者に対し、就労支援及びその他の自立に関する問題について相談・支援を行った。相談支援員及び主任相談支援員は、本会職員（2名）が兼務し、取り組んだ。

また、町校長会や民生児童委員協議会定例会、町関係部署との協議及び協力依頼を行った。

民生児童委員からの情報提供を受けての同行訪問や高知県社協の家計相談支援事業とも連携し、相談者の生活課題の把握・整理から課題解決に向けて状況に応じた包括的・伴走型支援に努めた。

| | | |
|--------------|-----|---|
| ➤ 相談受付件数 | 36 | 件 |
| ➤ 電話相談 | 55 | 回 |
| ➤ 訪問・同行支援 | 108 | 回 |
| ➤ 面談 | 38 | 回 |
| ➤ 支援調整会議 | 7 | 回 |
| ➤ 関係機関とのケース会 | 11 | 回 |

■若者サポート会議

引きこもりの若者無業者の支援のために、若者サポートステーション、教育委員会、町健康福祉課と協力体制をとり、定期的な関係者会議を開催した。

| | | |
|--------|---|---|
| ➤ 会議回数 | 4 | 回 |
|--------|---|---|

■フードドライブ活動

県下で展開される食料支援のための活動にも参加し、住民への呼びかけを「あくしゅ」や本所、支所の窓口で呼びかけ、多くの食料品のご寄付をいただいた。また、必要な方への食料提供活動も行った。

| | | | | |
|--------|---|---|----|---|
| ➤ 支援件数 | 3 | 件 | 12 | 回 |
|--------|---|---|----|---|



(2) 福祉サービス利用援助事業

日常生活を送る上で、自分ひとりでは判断することが難しい高齢者や障がい者が安心して生活が送れるように、福祉サービス利用援助と日常的な金銭管理、暮らしのアドバイスを行った。

支援にあたっては、利用者の自己決定を尊重しながら、専門員と生活支援員が連携し、事業を実施することにより利用者の在宅生活を支援した。

また、社協だよりへ事業概要を掲載し、周知に努めた。

成年後見制度への移行が必要な場合の対応として、法人後見受任に向けて、積極的に研修会や情報交換会に出席した。

- 平成30年度末現在契約件数 6件
- 生活支援員による支援回数 80回
- 専門員による直接支援回数 82回

(3) 生活福祉資金貸付相談制度

高知県社会福祉協議会との契約によって借受世帯に対する償還支援を実施した。特に、生活困窮者自立相談支援事業とも連携し、貸し付けに関する相談にも応じた。

- 平成30年度末現在貸付件数 12件
- 借り受けに関する相談件数 4件

6. 在宅介護・在宅支援事業

(1) 介護保険サービス「訪問介護事業」

居宅サービス計画に沿った訪問介護計画の作成を行い、利用者とのコミュニケーションを大切に計画に基づいたサービスの提供を行った。

ケース検討会を定期的に行い、情報を共有することによって統一したサービスを提供することができた。ヘルパーの資質向上のための職場内研修（高齢者の介護予防・重度化予防、認知症の基礎）を行った。

津野町内の訪問介護事業所が連携し、今後の訪問介護提供体制を整理再構築するための協議を高原荘訪問介護事業所、町と行った。

<平成30年度利用実績>

| 月 | 利用者数（実人員） | | 稼働ヘルパー数 （実人員） |
|-----|-----------|------|------------------|
| | 30年度 | ※前年度 | |
| 4月 | 19 | 15 | 4 |
| 5月 | 17 | 14 | 5 |
| 6月 | 16 | 16 | 5 |
| 7月 | 16 | 17 | 4 |
| 8月 | 16 | 20 | 4 |
| 9月 | 17 | 21 | 5 |
| 10月 | 17 | 19 | 5 |
| 11月 | 16 | 17 | 4 |
| 12月 | 16 | 16 | 4 |
| 1月 | 15 | 17 | 4 |
| 2月 | 15 | 17 | 4 |
| 3月 | 15 | 17 | 4 |
| 合計 | 延195 | 延206 | 延52 |

<平成30年度サービス内容別提供数>

| サービス内容 | 提供回数(回) | | 延時間（時間） | |
|---------|---------|-------|---------|-------|
| | 30年度 | ※前年度 | 30年度 | ※前年度 |
| 身体介護 | 612 | 556 | 358 | 306 |
| 生活援助 | 814 | 425 | 748 | 402 |
| 身体+生活 | 183 | 221 | 204 | 238 |
| 介護予防・総合 | 333 | 419 | 333 | 419 |
| 合計 | 1,942 | 1,621 | 1,643 | 1,365 |

(2) 介護保険サービス「訪問入浴介護事業」

居宅介護事業所と情報共有することによって安心、安全に入浴サービスを提供することができた。利用者は減少し、1月から利用がなかった。

平成30年度利用実績

- 利用者数：2人
- サービス提供回数：48回（前年度43回）

(3) 福祉用具貸与・介護用品あつせん事業

通院時や外出時のみの車椅子貸与を無料で行い、ベッドの搬出入は、本会事務局で行った。

介護用品の斡旋については、本会事務局で相談を受けながら対応した。貸出用福祉用具の充実のため、需要の多い電動ベッド1台を購入した。

| 所有用具 | 貸し出し利用人数 | | |
|-------|----------|----|---------------|
| | 長期 | 短期 | ※前年度 |
| 電動ベッド | 15 | 1 | 長期 16 短期 0 |
| 車椅子 | 8 | 42 | 長期 6 短期 38 |

(4) 生活支援型配食サービス

町からの受託事業として実施。ケア調整会議で必要と認められた方へ昼食を配達した。全町で毎日型の配達を実施した。普通食は、町内飲食業者、特別食は、特別養護老人ホームに調理を委託し、配達は大協職員が対応した。安否確認や必要がある場合には、関係機関への連絡等、在宅生活の継続を支援した。

<平成30年度利用実績>

| 区分 | 利用者数(人) | 提供食数 |
|-----|---------|-----------------|
| 特別食 | 3 | 453 |
| 普通食 | 15 | 2,138 |
| 計 | 18 | 2,591（前年度3,567） |

7. 障がい者地域生活支援

(1) 地域活動支援センター

町内の障がいのある住民が交流活動やレクレーションを通じて、地域との交流や仲間づくりを行うために、毎月「わきあいあい広場」を実施し、また、集団生活に馴染みにくい在宅障がい者が生活の訓練などを行う「わきあいあい広場ミニ」を実施した。

また、支援ボランティアとミーティングを行い、障害の理解や個別支援について話し合った。

ご本人や家族の抱える困りごとに対応するため支援員が在宅訪問を行い、生活状況把握や悩み事を聞かせていただき、関係機関と共に情報共有した。

学校の長期休暇期間中には、障がい児童、生徒対象に「障害児長期休暇支援事業」を実施し、関係者及び支援ボランティアの協力を得て、子どもたちの様々な体験や遊びの場を提供し、楽しい休暇を過ごしてもらうことができた。保護者と子どもたちの様子などの情報交換のため親子遠足を行い、保護者同士の交流の場となった。

■わきあいあい広場

町内の障がい者の交流の場として毎月実施した。

参加を通して、社会生活の幅が広がり、日常生活の中でも声掛けができる仲間となってきた。

| 実施日 | 内 容 | 参加者数（人） | |
|--------|---------------------|---------|----------------|
| | | 障がい者 | ボランティア 社協職員 |
| 4月 5日 | ピザ焼き体験・ノルディックウォーキング | 10 | 9 |
| 5月22日 | 調理・卓球・卓球バレー | 8 | 5 |
| 6月 2日 | 調理・カラオケ | 11 | 5 |
| 7月 3日 | 調理・次月の行事話し合い | 7 | 8 |
| 8月29日 | お出かけ（オーテピア、買い物） | 11 | 7 |
| 9月19日 | 調理・こんにゃく作り | 10 | 5 |
| 10月 5日 | 調理・歯科教室・室内ゲーム | 7 | 5 |
| 11月19日 | お出かけ（錯覚美術館、桂浜、買い物） | 10 | 4 |
| 12月12日 | 調理・クリスマス会 | 13 | 4 |
| 1月22日 | 調理・おやつ作り・室内ゲーム | 10 | 9 |
| 2月21日 | 調理・次年度話し合い | 9 | 5 |
| 3月26日 | 障がい児とお出かけ（鏡野公園・買い物） | 12 | 6 |
| 合 計 | | 118 | 72 |
| ※前年度 | | 121 | 96 |

■わきあいあい広場ミニ

日中の居場所を確保し、自分のペースで社会的な体験ができる場として、実施した。集団の中では対応できにくい個性と障害特性への配慮をしつつ生活課題に向き合い、調理や作業など利用者主体の活動となるよう個別支援を行った。

| 実施月 | 内 容 | 利用者数 (人) |
|---------|---------------------|-------------|
| 4月(1回) | 調理・ゲーム | 2 |
| 5月(2回) | 調理・町内散策・図書館・作業所見学 | 4 |
| 6月(2回) | 調理・クイズ・座談 | 4 |
| 7月(2回) | 調理・座談・片岡邸見学 | 2 |
| 9月(3回) | 調理・パソコン教室・図書館 | 4 |
| 10月(2回) | 調理・おやつ作り・座談 | 4 |
| 11月(2回) | 調理・障がい連クリスマス会準備・座談 | 2 |
| 1月(2回) | 調理・図書館・座談 | 2 |
| 2月(2回) | 調理・障がい連会報の文書作成 | 2 |
| 3月(3回) | 調理・散歩・座談・ゲーム・パソコン教室 | 3 |
| 計 | | 29 |

■生活相談事業

在宅で暮らされている障がいのある方々のうち、町より訪問依頼のあった方に支援員が訪問し、生活状況の聞き取りを行った。必要なケースについては、町や保健師に相談し、つないだ。

平成30年度実績

- 訪問者数：9人
- 訪問回数：延15回

■障害児長期休暇支援事業

保健師等町関係者との協議や関係学校との連絡をとりながら、子どもたちが楽しい休暇を送れるよう支援した。地域住民、支援ボランティアの協力を得て実施し、また、あったかふれあいセンターや中土佐町の子どもたちとの交流を行った。

<平成30年度長期休暇支援事業実施内容・参加者数>

| 実施日 | 内 容 | 参加者数（人） | | |
|--------|-------------------------------|---------|--------|----|
| | | 児童・生徒 | ボランティア | 職員 |
| 7月23日 | 宿題・読み聞かせ・調理実習話し合い・歯科教室・粘土クラフト | 12 | 9 | 3 |
| 7月25日 | 宿題・あったかふれあいセンター交流・プール | 12 | 8 | 3 |
| 7月31日 | 宿題・流しソーメン・陶芸教室 | 12 | 11 | 4 |
| 8月2日 | 宿題・レクリエーション・プール | 12 | 4 | 8 |
| 8月6日 | 宿題・読み聞かせ・調理・川遊び | 13 | 10 | 8 |
| 8月8日 | 中土佐町の子どもたちとの交流 | 13 | 8 | 4 |
| 8月10日 | スポーツ体験（車いすバスケット）・わんぱく高知へお出かけ | 13 | 7 | 6 |
| 8月13日 | 宿題・ピザ焼き体験・読み聞かせ・レクリエーション | 11 | 12 | 3 |
| 8月21日 | 宿題・調理・音楽療法 | 9 | 7 | 4 |
| 8月27日 | 宿題・読み聞かせ・おやつ作り・プール | 13 | 6 | 7 |
| 12月26日 | 宿題・年賀状書き・レクリエーション | 11 | 4 | 3 |
| 1月7日 | 宿題・調理・室内ゲーム | 9 | 3 | 3 |
| 3月26日 | わきあいあい広場と合同お出かけ（鏡野公園） | 9 | 4 | 3 |
| 3月27日 | 宿題・レクリエーション・老人クラブとグラウンドゴルフ | 10 | 3 | 4 |
| 合 計 | | 159 | 96 | 63 |
| ※前年度 | | 132 | 80 | 85 |



■親子遠足

障がいをもつ子どもたちの保護者同士が悩みや楽しみを共有しつつ、親同士がつながるための親子遠足を実施した。

- 実施日：平成31年2月11日（月）
- 場 所：えひめこどもの城
- 参加者：保護者4人、児童5人

■自立支援ボランティア研修

障がい（児）者の支援のために活動する自立支援ボランティアの学習の機会をつくり、職員も共に学んだ。

- 研修日：平成30年7月29日（日）
- 場 所：高知県立ふくし交流プラザ
- 参加者：ボランティア5人

■自立支援ボランティアミーティング

障がい（児）者の支援のために活動する自立支援ボランティアの情報共有を目的にわきあいあい広場参加者の個別検討を行った。

- 実施日：平成30年5月14日（月）
- 場 所：津野町福祉交流センター
- 参加者：ボランティア6人

■当事者研修

障がい者が日常生活のなかで社会参加できる場面が広がるように環境の違う町外の研修会に参加し、職員と共に学び他市町の参加者と交流した。

- 実施日：平成30年11月20日（火）
- 場 所：中土佐町民交流会館ホール
- 内 容：講演「農福連携 安芸での取り組みを通して」
レクリエーション
- 参加者：わきあいあい広場利用者2人

(2) 障害福祉サービス「居宅介護」

在宅生活、地域生活を送るために、利用者の身体機能や心に合わせたサービス提供に努めた。ヘルパー間の情報共有やケース検討の場をもち、利用者とのコミュニケーションをていねいに行うことにより、利用者に寄り添ったサービスを提供することができた。

利用者のサービスの質を高めるために、町相談支援事業所、サービス関係スタッフとのケース会議にも出席した。

平成30年度利用実績

- 利用者数：7人
- サービス提供時間：522時間（前年度403時間）

(3) 移動支援事業

外出のための移動に困難がある障がい児・者の日中の地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的とする事業で、町より受託し、介護職員による移動支援を行った。

平成30年度利用実績

- 利用者数：2人
- サービス提供日数：8日（前年度13日）
- サービス提供時間：44時間（前年度50.5時間）

8. 就労継続支援（B型）事業所

（1）経営

障害福祉サービス就労継続支援（B型）事業所として、どんぐり農園 グリューネ・作業所里楽を一体的に運営した。両作業所のスタッフ間の連携をはかり、協力をして事業所運営にあたった。利用者の減少から経営的には厳しい状況が続いた。また、町担当課と経営改善についての協議及び本会理事会において検討を行った。

（2）利用者の状況と支援

新規利用者が1名、更に別事業所利用から本サービスの利用再開により1名が増員となったが、退所者2名（他の事業所利用）があり、年度末現在で21名の利用者となった。

昨年度より利用日数が増加したが、継続して通所しにくい利用者もいることから利用の定着が課題となっている。また、高齢化に伴い、通院、入院による治療日数が増えている利用者に対する作業面の配慮や服薬、生活支援、退所後の生活維持の課題も大きくなってきている。

支援については、個別支援会議及びモニタリング会議等により、個別支援計画を作成し、個人の能力や心理、体調等状況把握を行いながら行った。

また、本年度、町自立支援協議会の就労支援部会が開始し、就労に関する情報共有やスキルアップのための学習会に参画した。町相談支援センターと連絡会を定期的実施し、ケース会議等へも積極的に参画した。

（3）作業と売上げ

授産事業では、どんぐり農園のハナニラで連作障害により生育に影響し、生産量が減少した。また、花苗についても病害虫の影響で出荷数が減少し、予定よりも減収となった。

作業所里楽では、クッキーの商品改善や作業の効率化を図り、クッキー作業に取り組める利用者が増えた。新たに紅茶クッキーを作り、販売を開始した。

販売活動では、どんぐり農園と作業所里楽が連携し、精力的にイベント等に出店して販売を行った。また、高知市や須崎市の医療機関や施設、量販店等での販売や町内直販所へも出品した。

売り上げは、どんぐり農園では、花、野菜、苗木、クリスマスツリー、町からの清掃作業受託による収入で、作業所里楽では、クッキー、パウンドケーキ、喫茶、自動販売機等の売り上げと町や葉山荘からの清掃作業受託での収入となった。

(4) 研修

どんぐり農園が利用者9名、スタッフ8名の参加で一泊研修旅行を実施し、岡山県の社会福祉法人めやす箱が運営する就労継続支援事業所を見学した。事業所の経営上の課題についても意見交換を行った。

また、作業所里楽、どんぐり農園の両作業所でそれぞれ日帰り社会見学や近隣の事業所との交流会などを実施した。

<平成30年度利用実績>

| 月 | 利用者数 (実人員) | 利用者数(延人員) | 内 訳 | |
|------|---------------|-----------|--------|-------|
| | | | どんぐり農園 | 作業所里楽 |
| 4月 | 22 | 357 | 142 | 215 |
| 5月 | 22 | 391 | 154 | 237 |
| 6月 | 22 | 401 | 147 | 254 |
| 7月 | 22 | 374 | 138 | 236 |
| 8月 | 21 | 326 | 122 | 204 |
| 9月 | 21 | 300 | 110 | 190 |
| 10月 | 21 | 368 | 139 | 229 |
| 11月 | 21 | 377 | 143 | 234 |
| 12月 | 21 | 309 | 110 | 199 |
| 1月 | 20 | 311 | 103 | 208 |
| 2月 | 21 | 333 | 123 | 210 |
| 3月 | 21 | 344 | 137 | 207 |
| 合計 | 255 | 4,191 | 1,568 | 2,623 |
| ※前年度 | 245 | 3,940 | 1,660 | 2,280 |

<平成30年度販売活動の実績>

- 5月・・・春の特産市、障がい(児)者連総会
- 6月・・・一陽まつり、町老人クラブ連合会総会、シルバー手作り展(高知市)
- 7月・・・高岡地区婦人会研修会
- 8月・・・町内教職員研修会
- 10月・・・老人大学、高知県身体障害者福祉大会津野大会
- 11月・・・精神障害者家族会研修会(梶原町)、産業祭・健康ふくし展
鏡川ふるさとまつり、キッズバリアフリーフェスティバル(高知市)
- 12月・・・障がい(児)者連クリスマス会、津野町人権コンサート
- 3月・・・シルバー手作り展(高知市)、三笑会福祉大会(梶原町)
虎太郎と龍馬講演会
- 通年・・・ふくし交流プラザ、須崎市量販店、高知市内病院、地域サロン
あったかふれあいセンター

9. 共同募金事業、日赤事業

(1) 共同募金、歳末たすけあい募金の募集と助成

共同募金推進計画に基づいて募金活動をそれぞれ行った。

戸別募金では各地区長の全面的な協力で募金活動を実施し、歳末たすけあい運動では、産業祭・健康ふくし展時に災害支援コーナーで義援金募集を行った。

- ▶ 赤い羽根共同募金
 - 募金実績額： 1,202,220 円
 - 本会で受けた助成額： 785,000 円
 - 助成事業：ふれあい配食サービス、福祉パトロール
社協だより「あくしゅ」発行
- ▶ 歳末たすけあい募金
 - 募金実績額： 123,445 円
 - 本会で受けた助成額： 107,870 円
 - 助成事業：年末おせち料理配食

(2) 健康ふくし展への参画

歳末助け合い活動として、災害支援コーナーを設置し、炊き出し、家具転倒防止器具や非常時用品等の展示、西日本豪雨被災地写真パネル展示を行った。会場の葉山運動公園には、多くの方が立ち寄り体験をしていただいた。民生児童委員、本会役員の協力により実施した。

また、「作業所里楽」の喫茶コーナー開設や「どんぐり農園グリュエネ」も花などの販売をし、収益につなげた。

〈健康ふくし展時 歳末助け合い募金額〉

65,411 円



(3) 歳末たすけあい助成事業「おせち料理の配食」

歳末たすけあい義援金を活用して、年末に一人暮らし高齢者、高齢世帯等へボランティアによる手作りおせち料理を配食した。

西地区、東地区それぞれに寿司などメニューの打ち合わせや材料の購入準備などボランティアの多くの協力で実現できた。

- 実施日 平成 30 年 12 月 27 日
- 配食数 350 食 (298 世帯)
(東地区 189 食、西地区 161 食)
- 調理・配達ボランティア 延 129 人
(東地区 46 人、西地区 83 人)



(4) 日赤（日本赤十字社）事業と活動資金募集

赤十字事業の啓発に努め、その活動資金の募集を5月の「赤十字会員増強月間」に行った。各地区長の協力で次のとおりの実績があった。

- 目標額 810,000 円
- 実績額 909,200 円
- 災害積立金 149,000 円
- 繰越金 50,398 円

また、日本赤十字社高知県支部高幡地区の事務局を務め、本会会長が地区長を兼務した。

10. 福祉団体の活動支援

各団体の事業計画に基づき、役員を中心とした事業運営が円滑に行われるよう支援した。事務局として活動した団体は、次のとおり。

(1) 民生児童委員協議会 事務局

本会と協働しながら、福祉パトロール、安心安全見守り台帳作成等に主体的に関わり、調査、調整、学習活動等を行った。

特別研修として、九州北部豪雨災害で被災された福岡県東峰村と熊本地震で被災された熊本県益城町を訪れた。それぞれの民生児童委員協議会と交流し、当時の被災状況や災害時の民生委員活動について情報交換を行った。

毎月の定例会開催や学校訪問の調整、会計事務、各種研修会への参加調整、研修事業調整など事務局業務を行った。

(2) 老人クラブ連合会 事務局

地域老人クラブの衰退が進む中、町内外の会員や小中学生など幅広い世代との親睦、交流を目的として事業に取り組んだ。

事業の計画、実施に関しては役員を中心に取り組み、事務局としては単位クラブの連絡調整、町や高幡・県老人クラブ連合会との調整を行った。

また、3B体操の講習や体力測定、グラウンドゴルフ、ウォーキングなどの健康づくり活動、各種研修会などの教養活動等、明るい長寿社会づくりを目指し、様々な事業を実施した。

(3) 障がい（児）者連合会 事務局

町内会員の交流を目的に、役員が中心となり事業企画を行った。行事には、ボランティア団体（シルバー介護士会、自立支援ボランティアわきあいあい）の協力を得て、多くの会員、家族が親睦を深めることができた。事務局として、各事業の調整、周知とりまとめ、会計事務などを行った。

10月には、高知県身体障害者福祉大会が本町 B&G 海洋センターで開催されるにあたり実行委員会事務局を本会が担当し、調整や連絡等を行った。

(4) 母子寡婦団体「ひまわりの会」事務局

活動費を得るために“めんつゆ”等の販売の支援を行い、会員同士の親睦旅行やボランティア活動を実施した。事務局として、会員が安全に活動に参加できるよう配慮した。

(5) シルバー介護士会「ひだまり」事務局

一人暮らし高齢者等の在宅訪問活動が定期的（月1回）に実施できるよう、訪問世帯の調整や訪問後の心配なケースを関係機関へつなぐなど支援した。また、一人暮らし高齢者等を招き、一日宅老所「ひだまり」を3回実施した。